

## 様式C-19

# 科学研究費補助金研究成果報告書

平成 21 年 6 月 1 日現在

研究種目： 若手研究 (B)  
研究期間： 2006～2008  
課題番号： 18730490  
研究課題名 (和文) 「教育」と「心理臨床」の境界に関する原理的研究  
—精神分析を中心に—  
研究課題名 (英文) Between Education and Psychotherapy: In Case of Psychoanalysis  
研究代表者 下司 晶 (GESHI AKIRA)  
上越教育大学・大学院学校教育研究科・准教授  
研究者番号： 00401787

### 研究成果の概要：

「教育」と「治療 (心理臨床)」の境界について、精神分析を中心に原理的な研究を行った。その結果、特に児童生徒の「心」の理解と教育との関係や、道徳性の発達等の問題について、成果を提出することができた。すなわち、(1)教育モデルと治療モデルとの異同や混交を原理的に解明すること、(2)教育において心理学のはたす役割とその限界を提示することができた。さらに(3)精神分析を中心とする心理療法についても、従来は十分に踏まえられていなかった思想的観点から、新たな一次資料を発掘し検討するなどの基礎的な知見を付け加えることができた。

以上の成果は、各種学会等で発表されるのみならず、一部は大学教育や現職教員向けの講習等でも広く還元された。特に教員養成の現場に対しては、今後の教員養成の指針となりうる観点を提出することができた。

### 交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	900,000	0	900,000
2007 年度	700,000	0	700,000
2008 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,400,000	240,000	2,640,000

研究分野： 教育思想史

科研費の分科・細目： 社会科学・教育学

キーワード： 教育哲学／教育思想史／精神分析／フロイト (派)

#### 1. 研究開始当初の背景

わが国では 1990 年代後半以降、教育問題に 대응するため、いわゆる「臨床の知」の導入が試みられてきた。なかでも、その中心

を担ったのが、スクール・カウンセリング制度の整備等からも明らかなように、臨床心理学であった。

もちろん、こうした試みは学校現場では

一定の成果を上げている。しかし他方では、教師にも臨床心理学的な知識が求められるなど、「教育」と「心理臨床」との区分が曖昧になってきているという問題があった。また、児童生徒や青少年の「心」が焦点化されることによって、解決すべき社会的・制度的問題から目が背けられてしまう点も危惧された。

そこで本研究では、今後のわが国における「教育」と「心理臨床」との関係に関して、ある程度具体的な一つの指針を提示することを、課題とした。

精神分析を中心的に扱う理由は（例え今日の日本ではさほど主流でないとしても）、それが歴史的に最も影響力を持った臨床心理学の一つだからであり、時期を 20 世紀前半に限定する理由は、この精神分析が滲透していく時期にこそ、教育と精神分析の関係のありように関して、最も議論が重ねられたからである。この時期の精神分析運動内外の動向を検討することによって、今日のわが国の「臨床心理学ブーム」への対応の処方箋も見いだせると考えられた。

## 2. 研究の目的

本研究では、以上のような教育現実に対処するために、今後のわが国における「教育」と「心理臨床」との関係に関して、ある程度具体的な一つの指針を提示することを、課題とした。

特に、教育と心理臨床(心理療法)との境界をまず明確にした上で、両者がどのような関係を取り結ぶべきなのか、また、心理臨床では担えない、教育独自の役割とは何なのかを検討した。

## 3. 研究の方法

文献による研究を中心としつつ、同時に

現代的課題に即座に答えうるよう、必要に応じて社会的調査も行った。

(1) 1920 年代から 1940 年代の精神分析学派を中心に、「教育」と「心理療法(精神分析)」との関係がどのようなものであったのかを、思想的に明らかにした。

(2) 現代における教育と心理臨床との関係のありようを検討した。

思想的な側面と実際の観点の両者を融合した原理的研究として、今後のわが国の教育へ具体的な指針を提示することを目的とした。

## 4. 研究の成果

「教育」と「治療(心理臨床)」の境界について、精神分析を中心に原理的な研究を行った結果、特に児童生徒の「心」の理解と教育との関係や、道徳性の発達等の問題について、成果を提出することができた。

すなわち、(1)教育モデルと治療モデルとの異同や混交を原理的に解明すること、および(2)教育において心理学のはたす役割とその限界を提示することができた。さらに(3)精神分析を中心とする心理療法についても、従来は十分に踏まえられていなかった思想的観点から、新たな一次資料を発掘し検討するなどの基礎的な知見を付け加えることができた。

わが国では近年、臨床心理学を導入することによって、教育問題を解決しようとしてきた（「カウンセリング・マインド」を教師に求め、「心理療法」の専門家である「臨床心理士」をカウンセラーとして学校に導入するなど）。

だが、そのことによって、「教育」と「心理療法」との区分が曖昧になり、かえって「教育」そのものの意義が見失われるという問題も起きている。

それに比して、欧米諸国のスクール・カ

ウンセリング制度では、「治療」と「教育」との境界に関して議論を重ねてきており、わが国でも学ぶべき点が多い。

もちろんこのことは、例えばわが国のスクール・カウンセリング制度を廃止すべきだということではない。むしろ例示すれば、それぞれの役割と原理明確にした上で、協力体制を形成することが求められるのである。

そのためには、臨床心理学的知見を、無批判に教育に取り入れるのではなく、「教育」と「心理臨床」それぞれの原理と、その境界を明確にすることが必要といえる。

以上の成果は、各種学会等で発表されるのみならず、一部は大学教育や現職教員向けの講習等でも広く還元された。特に教員養成の現場に対しては、今後の教員養成の指針として寄与しうる観点を提出することができた。

詳細は下記の成果をご参照頂きたいが、図書 2 件（うち共著 1）、雑誌論文 6 件（査読付き全国学会誌 5（うち共著 1）、地方研究会誌 1）、学会発表 3 件（うち共同発表 2）、その他 2 件と、一定以上の割合でコンスタントに成果を提出することができた。

また、本報告書提出時点、さらに 2 本の論文を査読付き全国学会誌に投稿中である。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 6 件）

①下司 晶 2009 「教職科目としての教育哲学の実践例とその意義—教育思想を通して自らの教育観を省察する試み」教育哲学会『教育哲学研究』第 99 号, 141-146 頁

②下司 晶 2008 「フロイトからフロイト主義

へ／病因論から教育言説へ— H・ハルトマンによる精神分析の心理学化と科学性の変容」教育思想史学会『近代教育フォーラム』第 17 号, 47-61 頁

③下司 晶 2006 「フロイトと精神分析を教育哲学において問うこと」教育哲学会『教育哲学研究』第 94 号, 80-84 頁

④須川公央・野見収・下司 晶・秋山茂幸・塩崎美穂「精神分析と教育 — エディプス・コンプレックスをめぐって」教育思想史学会『近代教育フォーラム』第 15 号, 191-202 頁, うち担当部分 197-200 頁。

⑤下司 晶 2006 「J・ボウルビィにおける母子愛着論の誕生 — 精神分析と自然科学」教育思想史学会『近代教育フォーラム』第 15 号, 203-220 頁

⑥下司 晶 2006 「フロイト主義が教育に与えた影響を問題化するために — 〈精神分析的子ども〉の系譜学に向けて（序説）」『教育経営研究』第 12 号, 102-112 頁

〔学会発表〕（計 3 件）

①林泰成・山名淳・古屋恵太・下司 晶 「教員養成課程における教育哲学の位置づけに関する再検討(1)」教育哲学会第 51 回大会 ラウンドテーブル 2, 於 慶應義塾大学三田キャンパス, 2008 年 10 月 26 日

②下司 晶・中橋和昭・渡辺正一・力間博隆・天野幸輔・古屋恵太 「教育実践に思想は不要か? — 有用性／必要性／可能性」教育思想史学会第 18 回大会 コロキウム 4, 於 奈良女子大学, 2008 年 9 月 12 日

③下司 晶 「フロイトからフロイト主義へ／病因論から教育言説へ — 精神分析の心理学

化と因果論の変容」教育思想史学会第 17 回  
大会 フォーラム 2, 於 京都大学, 2007 年, 9  
月 17 日

〔図書〕(計 2 件)

①井ノ口淳三編『道徳教育』学文社, 2007,  
全 191 頁、うち執筆部分は第三章「道徳  
性の発達理論とその臨界——フロイト、  
ピアジェ、コールバーグ」48-75 頁.

②下司 晶『〈精神分析的子ども〉の誕生  
——フロイト主義と教育言説』東京大学  
出版会, 2006

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

①下司 晶 2009 「藤川信夫編著『教育学に  
おける優性思想の展開』(書評)」『教育学  
研究』(日本教育学会, 76 巻第 3 号(2009.1),  
127-129.

②下司 晶 2008 「高橋勝著『経験のメタモ  
ルフォーゼ』(書評)」『教育学研究』(日  
本教育学会, 75 巻第 3 号(2008.9), 316-317.

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

下司 晶 (GESHI AKIRA)

上越教育大学大学院・学校教育研究科・

准教授

研究者番号 : 00401787